



情報活用能力の育成を目指して

—新聞記事データベース「朝日けんさくくん」の実践を中心に—

青木 いず美



<抄 録>

次の「学習指導要領」の改訂に向けて準備が進められ、現場にも少しずつ具体的な内容が届き始めている。キーワードの1つ「アクティブ・ラーニング」は「主体的・対話的で深い学び」と示された。現行の「学習指導要領」により学校図書館の重要さが具体化されたが、今後その役割はさらに大きくなっていくと考えられる。

そこで、少しずつ定着してきている本校の学校図書館教育の学び方指導の一部を紹介する。

<キーワード>

学校図書館、情報活用能力、新聞記事データベース、「朝日けんさくくん」

1 はじめに

世界遺産「富岡製糸場」のある富岡市の隣に位置する甘楽町は、鎌倉時代から戦国時代にかけて、豪族・小幡氏の根拠地として栄えた場所である。人口約13000人の小さな町であるが、1983年から『デカメロン』で有名な作家ボッカチオを生んだイタリアのトスカナ州に属するチェルタルド市と姉妹都市協定を結んでおり、中学生の相互交流や小学生の作品交流等の文化交流をはじめさまざまな国際交流が続いている。

本校は織田宗家ゆかりの城下町小幡にある6学級児童数170人の小規模校である。

今回は、学校図書館教育を中心に児童の情報活用能力の向上を目指した実践を新聞記事データベースを中心に紹介してみたい。

2 読む力を育てる

本校の学校図書館は、蔵書数約9000冊、読書中心の部屋と調べ学習中心の部屋が併設されている。学校司書にあたる人はいない。図書のデータベース化は、PTAの理解・協力を得て昨年夏から計画が



写真1：ALTによる英語絵本の読み聞かせ

進み、11月末から保護者ボランティアを中心に作業がスタートし、新年度4月からの本格開始を目指している。

全校で行う読書活動の1つ「11月の読書月間」では、家庭での20分読書が定着しており

8割近くの児童が毎日行っている。学校図書館での貸出し率の向上はもちろん、11月は家族で町立図書館へ通う姿も年々増えてきた。

また、「日本絵本賞読者賞」の取り組みは、2009年度から読書指導の一環として位置づけている。いろいろなジャンルの絵本を校内の児童・職員が読むことで本を通しての共通の話題ができ、異学年交流による、本を通しての人の繋がりが広がっていった。

以上のような読書指導を基盤に各教科で読む力を身に付けていこうとしている。

3 調べる力・表現する力を育てる

調べる力・表現する力の基礎として学校図書館の利活用を進めている。学び方指導として、オリエンテーションをはじめ、図鑑探検、国語辞典探検、百科事典探検、学習年鑑探検の授業は、司書教諭主導で行っている。

そして、各学年で本を使った学習を行い、情報の収集、選択の仕方を学んでいる。また、情報をまとめ、発信することも学校内、家庭、地域に向けて行っている。



写真2：幼稚園で読み聞かせする1年生



写真3：国語の時間にグループで情報の読み取りをする1年生



写真4：総合の時間に情報の収集・選択をする2年生

4 新聞記事データベースの活用

(1) 本校の情報教育について

甘楽町では、情報教育として、各学年年間10時間程度情報教育指導員が担任と授業を行う時間が設けられている。インターネット環境は、職員室とパソコン教室のみでのインターネット接続可能という状況であるが、今年度は、図書館のデータベース化に伴いようやく校内LANが整備された。

(2) 「朝日けんさくくん」を使って

本校は、東京学芸大学デジ読評価プロジェクトの協力のもと、4年前から新聞記事データベース（「朝日けんさくくん」）の活用を行ってきた。この実践を通して、情報を探す・読む・選択する・まとめる・発信する力を目指している。

① 第4学年の実践

総合的な学習の時間「自分の成長を見つめて～二分の一成人式に向けて～」で、新聞記事データベースの1つ「朝日けんさくくん」のキーワード検索を使って、自分の生まれた日の出来事を調べて、二分の一成人式に掲示することをめあてとする授業を行っている。

情報スキルとして新しく出てくるものに、「ログインしてIDとパスワードを入れる、ログアウトする」という項目がある。パスワードの文字が表示されないという初めての体験を通してパスワードの重要性を知る貴重な機会になっている。

授業は、まず担任から今日のねらいを伝え、次に情報教育支援員が中心となり、新聞と「朝日けんさくくん」との相違について知らせることから始まる。

そして、「朝日けんさくくん」の使い方を学習しながら、自分の生まれた日の出来事を調べていく。

担任、司書教諭は机間支援しながら、選ぶ記事がねらいから外れないように、事件事故の記事ではなく二分の一成人式にふさわしい記事が探せるように支援する。

児童は、検索結果から興味ある記事を読んで1つを選び、感想を書き、月ごとに模造紙に貼り掲示物を仕上げていき、二分の一成人式で掲示される。

② 第3学年の実践

3年生は国語の授業「紹介したい問題を探そう～しつもんドラえもん～」で「朝日けんさくくん」のナビ検索を使い「しつもんドラえもん」の記事を読み、クラスの友達に紹介するという学習を毎年展開している。

今年度は、二人一組になり、1ページ20件（問題と答えの10組）を担当して読み、一番紹介したい問題を決めて



写真5：「朝日けんさくくん」で誕生日の記事を検索

クイズ大会を開いた。「しつもんドラえもん」は、ナビ検索の「よみがな付きの記事」の中の1つであるので、3年生でも楽しく記事を読むことができる。自分の知らない問題がテーマごとに載っているので興味を持って読んでいた姿が見られた。また、新聞は毎日いろいろな面に「しつもんドラえもん」が載っているので、紙ベースの新聞と合わせて紹介することで新聞にも興味を示す児童が見られた。

(3) 他の「よみがな付きの記事」を使って

ナビ検索の「よみがな付きの記事」は年々充実していて種類も増えている。その中の9項目を使い、興味深い記事を見つけて要約する授業に取り組んでみた。4年生は読書が好きで物語を中心によく読むが、新聞はあまり読んでいない。新聞を取っていない家庭も増えている。そこで、児童にとって興味深い内容のニュース記事を読ませたいと考え、今回計画した。新聞やインターネットを利用する場合、児童にとって困



写真6：国語辞典も使いながらまとめる

字が多いということである。その点これらの記事には読み仮名が付いているので児童が読むことができる。読めれば、わからない言葉の意味は国語辞典等を使って知ることができる。

これらの実践を通して、中学年で情報モラルを含めて新聞記事データベースが使えるようになっていけると、高学年の調べ学習での情報収集の幅が広がると感じた。小学校では難しいのではないかと考えていたが、この辺から始められれば無理なく学習の中に位置づけて使用することができる。

情報教育支援員の立場からは、「情報の信憑性が高いので安心して児童に使用させられる。ページ構成がすっきりしていて、子どもの目をうばってしまうようなバナーやアイコンがなく集中して調べることができる。」という感想が聞けた。

5 おわりに

情報活用能力の育成において、学習ツールの1つである新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を通じた実践を計画的・継続的に行うことができたことの意義は大きい。それも含めデジタル教材とまず教員がどのように向かい合い、効果的な学習のためにどのように活用していくのか試行錯誤していくことが今後のたくさんある緊急課題の1つになっていくだろう。

教員としてまた司書教諭として、デジタル教材にどのようにかわっていきけるのか研修を続けていきたい。